



第3回臨時議会

議会に新風

5人の新人議員誕生

議長に石沢多佳樹氏



一般選挙後、はじめての議会が五月四日開かれた。

当日は、新人議員が五人、元議員一人という最近では例のない議会であった。開会にあたって、最年長者である樋口忠義さんが臨時議長となり、会期を一日と決め、議長に石沢多佳樹さん、副議長に東出昇さん、議会選出監査委員に西村福男さんを選び、各常任委員の指名、同委員長、副委員長の選挙、その他一部事務組合議員を選挙し、十一時に閉会した。

今回議員に当選された人たちの平均年齢は四十七歳で、前回の平均年齢四十九歳から見ると、二歳も若くなったと言える。この平均年齢は、郡下でも県下でも若い方である。

この若い議員の皆さんは、村民に公約したことを果たすため、今後の議会で大いに活躍することを期待したいものです。

各常任委員長と副委員長及び委員が、次のように決まりました。

総務常任委員会（敬称省略）

委員長 奈良兼太郎、副委員長 長後雄二、委員 石沢多佳樹、東出昇

文教厚生常任委員会

委員長 木部惣太郎、副委員長 吉田順一、委員 樋口忠義、大石健次郎

土木建築常任委員会

委員長 松沢勝雄、副委員長 大畑勝義、委員 川畑寅吉、田中徳太郎

産業経済常任委員会

議員の横顔

委員長横浜清、副委員長内藤清美
 委員奥本文男、西村福男
 ●下北地方精神薄弱児施設組合
 議会議員 吉田順一
 ●むつ地環境整備組合議会議員
 奥本文男
 ●下北医療センター議会議員
 石沢多佳樹、東出昇



木部惣太郎 (57)



長後 雄二 (45)



奈良兼太郎 (52)



副議長 東 出 昇 (49)



議長 石沢多佳樹 (40)



大畑 勝義 (49)



松沢 勝雄 (51)



大石健次郎 (44)



樋口 忠義 (58)



吉田 順一 (39)



西村 福男 (46)



奥本 文男 (46)



内藤 清美 (40)



横 浜 清 (56)



田中徳太郎 (39)



川畑 寅吉 (45)



【初登庁で花束を受ける松谷村長】

六年ぶりにまた
 皆さんのお世話を
 いただくことにな
 りました。よろし
 くお願い申し上げ
 ます。
 さて、このたび
 は、村政の一番重
 い責任を背負う地
 位につきましたの
 で、皆さんどのど
 のような対話であ
 っても、それは私
 の公約になります
 公約は、それぞれ

村 長 松谷 清治

就任のあいさつ

このたび、五月四日の第三回臨
 時議会におきまして、不肖私が名
 誉ある議会議長にご指名をいただ
 いたのであります。
 顧みますれば、私は村議会議員
 としましては、極めてその経験の
 浅いものでありますし、加うるに
 浅学非才であります、もとより
 その器ではないことは私よく承知
 いたしております。しかしながら
 皆さん方のご推薦の背後には、村
 民の方々の希望と信頼があると信
 じて、不敏を顧みませずここ
 に議長をお引き受け申し上げた次

第であります。
 お引き受け致しました限りは、
 一身を挺してそのご厚志におむく
 い申し上げる覚悟であります。
 何と申しましても、この重責は
 皆さんの絶大なるご指導がなくて
 は全うすることができないもので
 あります。
 新たな覚悟をもって、村民生
 活の幸福のために誠心誠意働いて
 皆さんのご信頼に答えたいと念願
 致しております。
 甚だ簡単ではありますが、議長
 就任のごあいさつと致します。

就任にあたって

議会議長 石沢多佳樹

の機関の審議をおして実現に努力致します。
皆さんの暮らしの中に、村政で解決しなければならぬことがら、どしどし話してください。そして、

退任のあいさつ

前村長 渡辺 幸定

私は昭和三十年四月三十日就任本年四月二十九日で四期十六年の任期満了となり、同日退職しました。在任中、村民皆さんからよせられましたご厚意に対しては、衷心

村誌上巻発行される

二千元で頒布します

明治百年記念事業として、昭和四十三年に計画された佐井村誌の上巻がこのほど発行された。

わが村の歴史は、凡そ数千年前の縄文時代からと言われているそれは、村内至るところから出土する石器、土器によって推定されるからである。この歴史の古いわが村には、数多くの史跡や文献などがあり、今では、これらが村の歴史を知る唯一の貴重な資料となっている。
このような貴重なものを、後世につたえるため、昭和十二年に郷土史家である笹沢魯羊氏が佐井村誌を編纂したが、時の流れとともにだんだんその姿を消してしまっ

れによって、皆さんの望ましい村づくりを進めて行きます。
以上、簡単、素直に私の信念を申しのべて就任のごあいさつと致します。

から深く感謝申し上げます。

退任にあたって、心から村民皆さんの将来のご多幸と村の発展を祈念致しまして退任のあいさつと致します。

そこで、わが村の古をたずね、新しきを知っておこうと今回の村誌の編纂に踏み切ったのである。幸い、東奥日報社の尾崎竹四郎



【できあがった村誌】

さん、国立弘前大学の小見山喜八郎さん、工藤睦男さんがこの仕事をお引き受けくださることになり、村内有識者の応援で作業を進めたのである。昭和四十三年に着手し、三年の歳月を経てこの四月一六に出版記念式を行なった。

（概観、各論、自然と人間）、第三章村の生活からなっており、写真も豊富にとり入れてあります。この上巻は一冊二千元で頒布しますから、希望者は総務課に申し込んでください。
最後に、村誌発行にあたって、貴重な資料を提供くださった皆さんと、執筆にあたられた皆さんに厚くお礼申し上げます。



【村誌出版記念式光景】

行政相談員に

太田俊勇氏

行政管理庁では、四月一日に古佐井の太田俊勇さんを行政相談委員に発令しました。

次のようなことで、お困りの方は、気軽に行政相談委員に申し出てください。

行政相談委員は、「行政管理庁長官」から行政相談業務の委嘱を受けて、皆さんからの相談に応じ無料で秘密を守り、親身になってお世話いたします。相談の方法は口答、電話、手紙のいずれでも結構です。

例えば、

- △ 恩給、年金、その他種々の申請などについて、申請後役所から何んの通知もない。
- △ 作業中けがしたが、賃金も休業補償も貰えず困っている。
- △ 豚や鶏の悪臭に困っている。
- △ 道路や側溝が破損して困っている。
- △ バスの時間が汽車との連絡に悪く困っている。
- △ 国有地（用水路、農道等）の払下げを促進して欲しい。
- △ 農地、森林、土地改良、河川戸籍、登記、児童福祉、身障者福祉、電話、郵便、煙草、電気消費者保護、自賠法、その他役所または特殊法人（公社、公団

公庫等)など、所所の仕事について

- テキパキやつてもらえない。
 - 納得できない。
 - こうしてほしい。
 - 不親切だ。
 - どうしてよいかわからない。
- などの苦情や相談、意見等があるが、どうも関係の役所へは申し出て

税制改正のあらまし

ことしも所得税の減税を中心に税法が改正されました。

- 1 所得税では、給与所得控除をはじめ各種の所得控除が引き上げられ、また、青色申告者について青色事業主特別経費準備金が創設されました。
 - 2 相続税、贈与税の配偶者控除などが引き上げられました。
 - 3 公害対策や資源開発対策、企業体質の強化などに役立てるための改正が行なわれました。
 - 4 交際費に対する課税が強化されました。
- 一 所得税では、各種の所得控除が次のように引き上げられました
- (1) 所得控除の引き上げ

(改正)	(現行)	
基礎控除	十九万円	十八万円
配偶者控除	十九万円	十八万円
扶養控除	十三万円	十二万円
 - (2) 給与所得控除の定額控除が十万円から十三万円に。
 - (3) 障害者、老年者、寡婦、勤労学生などの各控除がそれぞれ十万円から十一万円に、特別障害者控除が十四万円から十五万円に。
 - (4) 配偶者のいない世帯の一人目の扶養親族についての扶養控除が、十三万円から十四万円に。
 - (5) 白色申告者の専従者控除が十五万円から十七万円に。
 - (6) 青色申告者について青色事業主特別経費準備金が新設され、毎年の事業所得の5%相当額(最高十万円)を限度として、青色事業主特別経費準備金へ繰り入れた金額は、必要経費となります。
 - (7) 配偶者控除や扶養控除ができる所得限度が次のとおり引き上げられました。
- | | | |
|--------|------|-----|
| (改正) | (現行) | |
| 給与所得など | 十五万円 | 十万円 |
| 資産所得など | 十万円 | 五万円 |
- (8) サラリーマンで、給与以外の所得が十万円(現行五万円)までの

にくいとか、どこへ申し出たらよいかわからないという方の相談相手になって、手続きを教えたり、関係の役所に通知、連絡し解決を促進したり、相談の内容によっては、行政監察局に通知し解決を図っています。

お困りの方は、是非行政相談委員に申し出てください。

人は、確定申告をしなくてもよいことになりました。
(9) 山林所得、譲渡所得、一時所得

転居届は郵便局にも

「迷い子郵便」をなくそう

「迷い子郵便」をなくすため、次のことに注意してください。

1 郵便局へ転居届を

転居したら、忘れずに郵便局へ転居届を出して「迷い子郵便」をなくしましょう。

転居届が出されると、郵便局では、旧住所にきた郵便をその後一年間新住所に転送します。転居届が出されていまいと、郵便は差出人に返送されます。

転居届の用紙は郵便局の窓口、役場にも備えるように依頼してありますからご利用ください。

2 表札と郵便受箱を必ず

新住所にあての郵便物が間違いなく配達されるよう、新居には、家族全員の氏名がはつきりわかる表札を掲示してください。また、雨の日でも大切な郵便物がぬれないように、大型の郵便物も入る標準規格の郵便受箱もいっしょに設置してください。

の特別控除額が、三十万円から四十万円に引き上げられました。
むつ税務署

献血推進だより

三月二九日研修所で献血推進協議会が開かれ、四六年度の新役員が次のとおり決まりました。

会議では、四六年度の献血事業計画について話し合い、今年度は七月、一〇月、三月に移動採決車が来村して献血を行なうことが決定された。このほか、「献血について」むつ保健所次長からの講演があり、熱心に討論された。

献血状況
受付数二一〇人、採血者一六八人、県下四位。

声

国定公園の南方にある牛滝は公園の南玄関であり、この玄関から出入りしている人々の多くいわれることは、「不潔」であるのとことです。

漁村であり、漁港であっても、利己的な考えさえなければ、他に利用出来る所も十分あるから、防波堤にどろだらけの臭気はなほだしい網を置いたり、港内で洗ったり、使用不能の網具を港内に捨てることは誠に残念であるばかりでなく、港湾法にもふれるものではないでしようか。また、特に注意すべきことは、港内でコールタール作業をすることです。これは地元漁民に迷惑であるばかりでなく旅行者の衣類、はき物、荷物等に附着し、旅行者にとっても迷惑はなほだしいことです。

毎日のように上り下りの定期船に乗る人、荷物の陸揚等にコールタールの不潔物が附着するので、陸揚に困る事もあると聞いています。このほか、煮干コナゴ製造者も、不潔にしたり、臭気のないよう注意を払うべきではないでしようか。

旅行者をよるこんで迎えるためと、郷土を美しくするために。

一住民

友 達

三位 磯谷中三 福田 一徳

友達とは、いったいなんだろう。ただ、二人、三人、四人とグループになって、うわべだけを話し合うことだろうか。いやそんなものではないはずである。

ぼくは、おたがいが理解し、信頼することができる仲間になった時はじめて友達といえると思う。

みなさんは、今、友達を何人くらいもっていますかと聞くと、たいていの人は、何人何十人といっぱいもっていると答えるだろう。友達をいっぱいもつことはたいへんすばらしいことだと思う。

しかし、ぼくは、その中でも自分が一番話しやすい人、自分の気持ちを一番理解してくれる人、そういう人がいてほしいと思う。

ある時、ぼくにこんなことがあった。ぼくが青森の新城中学校に通っていたころのことだった。ぼくの友達に一戸君がいた。

中間テストになると、ぼくはいつも成績が悪く先生にお説教ばかりくわされていたが、一戸君もあまり頭の良い方ではなかったのだから、ぼくと同じにおこられた一人であった。

二人がいつしよに家へ帰ったある日、ぼくは一戸君に「おめ、めんじテストになら成績わりな。」と

言う、一戸君は「おめこそテストわりふて。」と口をかせした。

ぼくは、「なに、おめこそテストわりふて先生におこらうとせよ。」と言った。一戸君も「おめだつてテストわりふて先生にただがいなくせよ。」と言った。ぼくは、「なしたてこのはげ頭この。」と言った、一戸君も「なに、このチャツケ。」と言った。

ぼくは、いつも気にしていた体が小さいことを言われたので、ちよどそばにあつた細長い棒で一戸君の足を思いっきりたたいた。すると一戸君もぼくの頭を思いっきりなぐつたので、とつくみ合いになつてしまつた。

ちよどその時、通りかかった先生がとめてくれた。ぼくは、「おい、おぼえておけあしたまだふたいでけして。」と言つてやつたら、一戸君も「おめこそ、あしたなぐなよ。」と言つて帰つてしまつた。

その晩、とこの中に入つてねようとしたが、今日けんかしたこと頭に入つてなかなかなむれなないので。 「わ、あの時、棒でたたいたからわの方わりんでねびが。」また、「わ、あの時棒でたたいたがねば、け

んかになつていなかつたかもしれぬのに。」などという後悔が心の底にのしかかつてくるのだ。

それからは、家へもいつしよに帰らず、休み時間でも二人が合うと、ジロツと見るだけで通りすぎるのだ。

こういうことでは、おたがいが毎日不愉快な気持ちでござなければならぬと思つたし、また、かれとの仲がだんだんはなれていくように思われたので、ぼくは、あすかれにあやまろうと決心した。

次の日、学校へ行く途中偶然かれに出合つたので、ぼくは思いきつて一戸君に「このあいだふたいで悪かつた。ゆるしてきよえ。」と言つと、一戸君は、あんがいあつさり「わの方わりんでゆるしてきよ。」とたがいにあやまり、ぼく達は前と同じなんでも話し合える仲間となつた。

その晩、ご飯を食べたあと朝のことを思いだし、友達つていいもんだなあと思つて、もう一度「友達」という字を辞書で調べた。それには、「多くの友。友人。」と書いてあつた。また、親友という言葉を書いてみたら、「心の友」と

書いてあつた。 こういうことから、ぼくが考えるには、友達とは、どこまでも、いや死ぬまでも話し合える相手と言うのだと思つた。また、けんかをした時、自分が今何をどうすれ

ばいいまよつている時、また進路についても気軽に相談できる相手を一人でももつということ、たいへん大切だと思う。その点、ぼくと一戸君は親友と言えると思う。

ぼくは父の仕事の関係で磯谷に転校した。青森には、一戸君もおり、何かと困まっていることがあると、手紙で相談しているが、身近な所にもそういう親友を持ちたいと思つてた。

磯谷に来て五カ月、ようやくぼく

くにも磯谷の親友が見つかったように思っている。

かれは、ぼくが就職するか進学するかで両親と意見が合わずこまっている時、かれは自分の考えを卒直にのべ、ぼくといつしよにがんばろうとはげましてくれた。

どんな小さいことでも、良いこととは良い、悪いことは悪いと言ふかれに、ぼくは頭がさがつた。 みなさん、この機会に友達の本当の意味を考え、真の友を作るように努力しようではありませんか。

心の泉

このたび匿名で、次の俳句などがよせられました。ありがとうございます。

みなさんの中では、まだ数多く作っている人がいると思います。どしどしおよせください。

川 柳

低所得たまのデートも彼女もち
議員さんこの時ばかりは低姿勢
橋造り雪どけまつて着工す
古々米もあわれや家畜のエサになり

俳 句

野に山にふきのとうつむわらべかな
こずえでも春を告げる二重奏
つくしんぼ先をあらそい顔を出す
露のとう潮荒れざらつく双つの掌

大石健次郎

